

プレスリリース

医師事務作業補助者（医療クラーク）に関するアンケート 報告

平成 24 年 12 月に勤務医、医療機関に対してアンケート調査を行い、その後 5 年が経過したこともあり、平成 29 年 6 月に広島県内全病院(244 施設)に調査票を発送し、協力いただきました。

結果の概要をお知らせします。

◇調査方法

県内全病院に調査票を発送し、手書きで記入後、返送（244 施設）

◇調査時期

平成 29 年(2017)年 6 月～9 月

◇回収数

155 件（回収率：63.5%）

◇結果の概要

①人数の比較

医師、医療クラーク、医療クラーク設置施設、のいずれも平成 24 年当時より増加

②勤務形態

出勤日数は週 5 日がほぼ大半を占め、1 日の勤務時間は 8 時間（休憩除く）、8 時 30 分～17 時 30 分での時間帯が多かった。

③配置先

主な配置先は、①医局、②医師専属、③外来、④病棟。⑤各診療科、⑥事務室、⑦全体・兼務

④仕事内容

各種診断書の作成、主治医意見書の作成、傷病手当金の証明書の作成、生命保険診断書の作成などはほとんどの施設で行っていた。補助作業としては、検査予約などの代行入力、データ入力補助など。

⑤設置して良かったこと

「医師の雑務が減少し、転院・退院がスムーズに運べるようになっている」、「患者と医師の橋渡し的な役割を担い、患者満足度もアップしている」、「医師の臨床・検査時間の増加」、「外来時の診療が円滑になった」など

⑥広島県医師会への要望等

「医師事務作業補助者研修会の開催」、「医師事務作業補助が公的な資格になればよいと考える」、「医師事務作業補助の採用を各医療機関に働きかけていただきたい」など

◇総括

医師にとって医療クラークは欠かせない存在になっていると認識されつつあり、機会があるごとに医療クラークに関する勉強会を開催し、広島県医師会勤務部会として活動の方向性も検討したい。